



里山と政策

1

報告者：小西由希子



- ・日時：2008年4月19日(土)
- ・場所：Qiball(きぼーる) 15F多目的室
- ・参加者数：40名
- ・内容： 民間型環境直接支払制度と
生物多様性農業支援について
- ・講師：原耕造氏(田んぼの生きものプロジェクト)

- 何かがおかしい日本の農業・米政策の低迷
- 世界の農業：1992年から流れが変わってきた
(GUR(市場原理の導入)と地球環境サミット)
環境政策と農業政策の一体化
- 所得補償(環境直接支払い)
農業＝「公共の景観や環境」に金を払う
国民の議論や認識が不可欠

何に支払うか？—“生物指標”

気候・風土・歴史・文化・暮らし方の結果
(生きもの調査による裏付け)

生物多様性農業支援センター

- 行政・市民等に対する提言・提案
環境負荷を軽減する農産物の価格を補償する
ことが、生物多様性や環境の保全になるのだ
ということを多くの納税者が認識することが必要

